

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
科目名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法

集中で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
科目名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	総括
第15回	第1学期の到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	総括
第30回	第2学期の到達度確認

授業方法

集中で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
科目名	◆ドイツ語学特殊研究(1)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	Aktuell gesprochenes Deutsch		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西1-302		

授業概要

Mit Hilfe von audiovisuellen Lernprogrammen aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“ auf dem Niveau C1 sollen Kenntnisse der aktuell bezogenen und gegenwärtig gesprochenen Sprache ausgebaut werden.

到達目標

Ausbau eines fortgeschrittenen Hörverständnisses; Ausbau eines aktuell anwendbaren Wortschatzes

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses. Einführung in die Benutzung des Internetprogramms der „Deutschen Welle“
第2回	Thema 1
第3回	Fortführung Thema 1
第4回	Fortführung Thema 1
第5回	Thema 2
第6回	Fortführung Thema 2
第7回	Fortführung Thema 2
第8回	Thema 3
第9回	Fortführung Thema 3
第10回	Fortführung Thema 3
第11回	Thema 4
第12回	Fortführung Thema 4
第13回	Fortführung Thema 4
第14回	Test (Themen 1-4)
第15回	Wiederholung

授業方法

Vor jedem aktuellen Thema erfolgt eine gemeinsame Einarbeitung in den Wortschatz. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer sehen ein Video oder hören eine Audio-Datei mehrmals. Sie füllen dann einen Lückentext aus. Es folgen die Vertiefung des Wortschatzes mit Hilfe des Glossars sowie weitere Übungen, teils in Gruppen. Den Abschluss bildet eine Diskussion des Themas.

Grundlage sind folgende zwei Arten von Materialien aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“:

- 1) Video-Thema (zwei- bis fünfminütige Videos mit interessanten Beiträgen zu vielfältigen Themen, dazu ein Manuskript plus Glossar und Übungen)
- 2) Top-Thema (wöchentlich aktualisierte Audio-Dateien mit Vokabeln, Text und Übungen)

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Deutschkenntnisse auf dem Niveau C1 werden vorausgesetzt.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
科目名	◆ドイツ語学特殊研究(2)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	Aktuell gesprochenes Deutsch		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西1-302		

授業概要

Mit Hilfe von audiovisuellen Lernprogrammen aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“ auf dem Niveau C1 sollen Kenntnisse der aktuell bezogenen und gegenwärtig gesprochenen Sprache ausgebaut werden.

到達目標

Ausbau eines fortgeschrittenen Hörverständnisses; Ausbau eines aktuell anwendbaren Wortschatzes

授業内容

実施回	内容
第1回	Thema 5
第2回	Fortführung Thema 5
第3回	Fortführung Thema 5
第4回	Thema 6
第5回	Fortführung Thema 6
第6回	Fortführung Thema 6
第7回	Thema 7
第8回	Fortführung Thema 7
第9回	Fortführung Thema 7
第10回	Thema 8
第11回	Fortführung Thema 8
第12回	Fortführung Thema 8
第13回	Fortführung Thema 8
第14回	Test (Themen 5-8)
第15回	Wiederholung

授業方法

Vor jedem aktuellen Thema erfolgt eine gemeinsame Einarbeitung in den Wortschatz. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer sehen ein Video oder hören eine Audio-Datei mehrmals. Sie füllen dann einen Lückentext aus. Es folgen die Vertiefung des Wortschatzes mit Hilfe des Glossars sowie weitere Übungen, teils in Gruppen. Den Abschluss bildet eine Diskussion des Themas.

Grundlage sind folgende zwei Arten von Materialien aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“:

- 1) Video-Thema (zwei- bis fünfminütige Videos mit interessanten Beiträgen zu vielfältigen Themen, dazu ein Manuskript plus Glossar und Übungen)
- 2) Top-Thema (wöchentlich aktualisierte Audio-Dateien mit Vokabeln, Text und Übungen)

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Deutschkenntnisse auf dem Niveau C1 werden vorausgesetzt.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
科目名	◆ドイツ語学特殊研究(3)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-504		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

中高ドイツ語文法そのものの学習および原典講読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
科目名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-504		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。中高ドイツ語文法そのものの学習および原典講読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350201101	科目ナンバリング	135F612
科目名	ドイツ語史特殊研究(1)(大学院)		
副題	言語史研究における言語データの問題		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 独文院生室		

授業概要

言語の歴史にアプローチしようとする場合、扱うテキストがどのような種類の言語データであるのかを意識せねばならない。古高ドイツ語であればラテン語からの影響を受けた特徴を示すテキストであるかどうか、中高ドイツ語であれば脚韻や韻律の制約のあるテキストであるかどうか、(初期)新高ドイツ語であれば何を目的に書かれたテキストであるのかを明確にしないと、分析者は本来の研究目的を達成することが困難になるであろう。そこで、本授業では、言語データの選択という方法論的問題を取り上げ、語順、格支配、接続詞、前置詞、談話標識、野卑語等に関して具体的なトピックを即しながら、データ選択のあり方について考える。

到達目標

受講生各自が分析したいと考える言語史上の現象を分析するには、どの言語データが適しているのかについて判断できる力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(1)
第3回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(2)
第4回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(3)
第5回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(4)
第6回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(5)
第7回	Fleischer/ Schallert (2011)講読(6)
第8回	中間まとめ
第9回	受講生による発表(1)
第10回	受講生による発表(2)
第11回	受講生による発表(3)
第12回	受講生による発表(4)
第13回	受講生による発表(5)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

導入のあと、まず最初の6回程度の授業でFleischer/ Schallert (2011)のなかで方法論について述べられた箇所を全員で講読する。そのあと、受講生各自が自らの希望に応じて扱うトピックを決めて、それに関してさまざまな関連文献を読んだ上で個別に報告する。

授業方法

ドイツ語による教科書の講読(訳すのではなく要約する)と、受講生による発表(プレゼンテーション)を交える。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

それぞれ担当する箇所について読解を進め、要旨を作成する。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表(プレゼンテーション)

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

要旨作成や文献検索については授業内および面談時にコメントする。

教科書

Historische Syntax des Deutschen, Jürgen Fleischer & Oliver Schallert, Tübingen: Narr Verlag, 2011

参考文献コメント

高田博行・新田春夫『ドイツ語の歴史論』(ドイツ言語学講座 第2巻)、ひつじ書房、2013年。その他については、授業中に適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350201102	科目ナンバリング	135F612
科目名	ドイツ語史特殊研究(2)(大学院)		
副題	言語変化の説明		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 独文院生室		

授業概要

言語変化を説明する観点として、1) 言語変異、2) 言語接触、3) 言語計画、4) 文法化・主観化、5) 発話行為、6) ポライトネスを取り上げて、ドイツ語史上の具体的な言語現象を例にしながら、歴史社会言語学および歴史語用論の枠組みで言語史を考察する。扱う時代は16世紀以降現代までとする。

到達目標

さまざまな観点で言語変化を検討することによって、受講生がそれぞれの関心のある歴史的段階のドイツ語もしくは現代のドイツ語を捉え直すためのアイデアを得ること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	歴史社会言語学: 言語変異(1)
第3回	歴史社会言語学: 言語変異(2)
第4回	歴史社会言語学: 言語接触(1)
第5回	歴史社会言語学: 言語接触(2)
第6回	歴史社会言語学: 言語計画(1)
第7回	歴史社会言語学: 言語計画(2)
第8回	歴史語用論: 文法化・主観化(1)
第9回	歴史語用論: 文法化・主観化(2)
第10回	歴史語用論: 発話行為(1)
第11回	歴史語用論: 発話行為(2)
第12回	歴史語用論: ポライトネス(1)
第13回	歴史語用論: ポライトネス(2)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法

教員による概観の提示のあと、各受講生が主体的にアプローチの方法と扱う言語現象について選択し、発表(プレゼンテーション)を行っていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分自身の発表担当以外のテーマについてもよく理解をし復習をした上で、自らの発表に臨むこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	発表(プレゼンテーション)

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

要旨作成や文献検索については授業内および面談時にコメントする。

参考文献

歴史社会言語学入門－社会から読み解くことばの移り変わり: 言語学フロンティア 04, 高田博行・渋谷勝己・家入葉子, 大修館書店, 2015

歴史語用論入門－過去のコミュニケーションを復元する: 言語学フロンティア 03, 高田博行・椎名美智・小野寺典子, 大修館書店

店,2011

歴史語用論の世界一文法化・待遇表現・発話行為,金水敏・高田博行・椎名美智,ひつじ書房,2014

歴史語用論の方法,高田博行・小野寺典子・青木博史,ひつじ書房,2018

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
科目名	ドイツ文学特殊研究(1)(大学院)		
副題	Manns "Der Tod in Venedig"		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1-406		

授業概要

Thomas Manns "Der Tod in Venedig". Kontexte und Interpretationen
 Thomas Manns Novelle "Der Tod in Venedig" (1911) erzählt die Geschichte eines alternden Schriftstellers, der sich während einer Reise nach Venedig in einen schönen Knaben verliebt. Es ist dies die Geschichte des Einbruchs einer todesstüchtigen Leidenschaft in ein anscheinend streng organisiertes 'geistiges' Leben. Die Novelle nimmt allerdings nicht nur psychologische Probleme auf, sondern enthält eine Vielzahl von Motiven der Mythologie und Décadence, die sie in umfangreiche kulturgeschichtliche und politische Kontexte stellt. Neben der Lektüre wird die Herausarbeitung dieser Kontexte eine wesentliche Aufgabe des Kurses sein. Darüber hinaus werden wichtige Forschungsarbeiten zu dieser Novelle vorgestellt. Im zweiten Halbjahr wird auch die Verfilmung der Novelle durch Visconti thematisiert.

到達目標

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen am Kurs lernen einen zentralen Text der modernen deutschen Literatur kennen, der auf bestimmte ästhetische, kulturelle und politische-soziale Entwicklungen zu Anfang des 20. Jahrhunderts in Deutschland und Europa hinweist. Grundlagen der Literaturwissenschaft und Literaturtheorie werden in Interpretationen zu dieser Novelle erarbeitet. Durch die Thematisierung der Visconti-Verfilmung werden auch mediale Fragen aufgeworfen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung, Vorstellung des Kurses
第2回	Thomas Mann - Leben und Werk im Überblick
第3回	Zur Entstehungsgeschichte der Novelle
第4回	Lektüre und Interpretation: Erstes Kapitel
第5回	Lektüre und Interpretation: Erstes Kapitel
第6回	Lektüre und Interpretation: Zweites Kapitel
第7回	Lektüre und Interpretation: Zweites Kapitel
第8回	Lektüre und Interpretation: Drittes Kapitel
第9回	Lektüre und Interpretation: Drittes Kapitel
第10回	Lektüre und Interpretation: Viertes Kapitel
第11回	Lektüre und Interpretation: Viertes Kapitel
第12回	Lektüre und Interpretation: Fünftes Kapitel
第13回	Lektüre und Interpretation: Fünftes Kapitel
第14回	Überblick über den Gesamttext
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法

Impulsanregungen durch den Seminarleiter, Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer und Teilnehmerinnen (Referate), Mediennutzung

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Vorbereitende Lektüre des Textes (Erarbeitung unbekannter Wörter etc.), Erledigungen von Arbeitsaufgaben (Vorbereitung von Referaten etc.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll ein Referat halten, regelmäßig am Kurs teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (50%) und der Diskussionsbeteiligung (50%).

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Kursleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über das Referat und die Unterrichtsbeteiligung. Möglichkeiten dafür sind jeweils nach den Unterrichtsstunden und die Sprechstunden.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
科目名	ドイツ文学特殊研究(2)(大学院)		
副題	Manns "Der Tod in Venedig"		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1-406		

授業概要

Thomas Manns "Der Tod in Venedig". Kontexte und Interpretationen
 Thomas Manns Novelle "Der Tod in Venedig" (1911) erzählt die Geschichte eines alternden Schriftstellers, der sich während einer Reise nach Venedig in einen schönen Knaben verliebt. Es ist dies die Geschichte des Einbruchs einer todesstüchtigen Leidenschaft in ein anscheinend streng organisiertes 'geistiges' Leben. Die Novelle nimmt allerdings nicht nur psychologische Probleme auf, sondern enthält eine Vielzahl von Motiven der Mythologie und Décadence, die sie in umfangreiche kulturgeschichtliche und politische Kontexte stellt. Neben der Lektüre wird die Herausarbeitung dieser Kontexte eine wesentliche Aufgabe des Kurses sein. Darüber hinaus werden wichtige Forschungsarbeiten zu dieser Novelle vorgestellt. Im zweiten Halbjahr wird auch die Verfilmung der Novelle durch Visconti thematisiert.

到達目標

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen am Kurs lernen einen zentralen Text der modernen deutschen Literatur kennen, der auf bestimmte ästhetische, kulturelle und politische-soziale Entwicklungen zu Anfang des 20. Jahrhunderts in Deutschland und Europa hinweist. Grundlagen der Literaturwissenschaft und Literaturtheorie werden in Interpretationen zu dieser Novelle erarbeitet. Durch die Thematisierung der Visconti-Verfilmung werden auch mediale Fragen aufgeworfen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Zusammenfassung der Ergebnisse vom vorigen Semester
第2回	Zur Entstehungsgeschichte der Novelle
第3回	Zur Entstehungsgeschichte der Novelle
第4回	Zur Wirkungsgeschichte
第5回	Zur Wirkungsgeschichte
第6回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第7回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第8回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第9回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第10回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第11回	Wichtige Forschungsarbeiten zur Novelle
第12回	Die Verfilmung der Novelle durch Visconti
第13回	Die Verfilmung der Novelle durch Visconti
第14回	Die Verfilmung der Novelle durch Visconti
第15回	Abschlussdiskussion

授業方法

Impulsanregungen durch den Seminarleiter, Gruppendiskussionen, Impulsanregungen durch die Teilnehmer und Teilnehmerinnen (Referate), Mediennutzung

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Vorbereitende Lektüre des Textes (Erarbeitung unbekannter Wörter etc.), Erledigungen von Arbeitsaufgaben (Vorbereitung von Referaten etc.).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll ein Referat halten, regelmäßig am Kurs teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (50%) und der Diskussionsbeteiligung (50%).

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Kursleiter spricht ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über das Referat und die Unterrichtsbeteiligung. Möglichkeiten dafür sind jeweils nach den Unterrichtsstunden und die Sprechstunden.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
科目名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	ヴァレンツ理論の歴史と現在		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 独文院生室		

授業概要

ヴァレンツ理論とは、動詞を中心として文を分析する言語理論の一つであり、特にドイツ語の分析や教授の分野で発展を遂げた。しかし、早い段階から、その中心となる「補足成分」(義務的な項)と「添加成分」(任意的要素)の区別に疑義が呈されるなど、その評価は定まっていない。この演習では、主にAgel (2000)を講読しながら、ヴァレンツ理論の歴史をたどり、現在の議論を理解する。

到達目標

- ・ヴァレンツ理論の歴史を理解し、説明できるようになる。
- ・ヴァレンツ理論の現在の議論を理解し、説明できようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示)
第2回	参加者による発表とディスカッション
第3回	参加者による発表とディスカッション
第4回	参加者による発表とディスカッション
第5回	参加者による発表とディスカッション
第6回	参加者による発表とディスカッション
第7回	参加者による発表とディスカッション
第8回	参加者による発表とディスカッション
第9回	参加者による発表とディスカッション
第10回	参加者による発表とディスカッション
第11回	参加者による発表とディスカッション
第12回	参加者による発表とディスカッション
第13回	参加者による発表とディスカッション
第14回	参加者による発表とディスカッション
第15回	授業の総括

授業方法

- 授業はゼミ形式で進める。
- 発表者は、担当部分・担当文献を読み込み、ハンドアウトを用意し、要点を分かりやすくまとめて説明する。
- 発表内容に関して参加者全員でディスカッションをする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ配布した資料を読み理解する(120分)。授業後は、その内容を復習し、関連文献を読む(60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	口頭発表

成績評価コメント

平常点 20% (出席、授業への積極的関与)、口頭発表の評価40%、学期末のレポート 40% を総合判断して評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、返却されます。

教科書

Valenztheorie: Narr Studienbücher, Vilmos Ágel, Narr Francke Attempto, 2000, 978-3823349785

参考文献コメント

授業中に適宜参考文献は追加します。

履修上の注意

第2学期の演習を続けて履修することが望まれます。

その他

ドイツ語の習得と分析に情熱を注げる学生を望みます。ドイツ語の高い読解力(CEFR基準でB2以上;独検で準1級以上)を持つことが望まれます。

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
科目名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	ヴァレンツ理論と構文文法		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 独文院生室		

授業概要

ヴァレンツ理論とは、動詞を中心として文を分析する言語理論の一つであり、特にドイツ語の分析や教授の分野で発展を遂げた。一方、構文文法は、認知言語学に基づく文法理論で、構文は単に深層構造から生成されるのではなく、それ自体で機能が意味を持つと考える。動詞の項構造を考えると、ヴァレンツ理論と構文文法は全く正反対のことを言っているのか、それとも両者の目指すところは同じなのか、そもそも動詞は文の形成でどのような役割を果たすのか。本演習では第1学期で習得したヴァレンツ理論の知識を基に、最新の議論を追っていく。主に、Engelberg et al (2015)に収録されている論文を毎回1つ取り上げて議論していく。

到達目標

- ・ヴァレンツ理論と構文文法の対照して理解し、その類似点と相違点を説明できるようになる。
- ・文形成における動詞の役割についての議論を理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示)
第2回	参加者による発表とディスカッション
第3回	参加者による発表とディスカッション
第4回	参加者による発表とディスカッション
第5回	参加者による発表とディスカッション
第6回	参加者による発表とディスカッション
第7回	参加者による発表とディスカッション
第8回	参加者による発表とディスカッション
第9回	参加者による発表とディスカッション
第10回	参加者による発表とディスカッション
第11回	参加者による発表とディスカッション
第12回	参加者による発表とディスカッション
第13回	参加者による発表とディスカッション
第14回	参加者による発表とディスカッション
第15回	授業の総括

授業方法

- 授業はゼミ形式で進める。
- 発表者は、担当部分・担当文献を読み込み、ハンドアウトを用意し、要点を分かりやすくまとめて説明する。
- 発表内容に関して参加者全員でディスカッションをする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ配布した資料を読み理解する(120分)。授業後は、その内容を復習し、関連文献を読む(60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	口頭発表

成績評価コメント

平常点 20% (出席、授業への積極的関与)、口頭発表の評価40%、学期末のレポート 40% を総合判断して評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、返却されます。

教科書

Argumentstruktur zwischen Valenz und Konstruktion: Studien zur Deutschen Sprache, Stefan Engelberg / Meike Meliss / Kristel Proost / Edeltraud Winkler (Hrsg.), Narr Francke Attempto, 2015, 978-3823369608

教科書コメント

教科書は必ずしも購入する必要はない。

参考文献コメント

授業中に適宜参考文献を追加します。

履修上の注意

第1学期の演習も併せて履修することが望まれます。

その他

ドイツ語の習得と分析に情熱を注げる学生を望みます。ドイツ語の高い読解力(CEFR基準でB2以上;独検で準1級以上)を持つことが望まれます。

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
科目名	ドイツ文学演習(1)(大学院)		
副題	世紀転換期ウィーン文学における女性像(1)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

世紀転換期のウィーンでは、家族のあり方や性愛のあり方が大きく変化しました。そうした中、女性はどうのような存在として捉えられ、どのように描かれたのでしょうか。この授業では、この時代をある意味代表する作家アルトゥール・シュニッツラーの諸作品を取り上げ、その女性像を追います。主に扱うのは、作家になるまでの時期を描き、没後に出版された自伝『ウィーン青春』、『ベルタ・ガルラン夫人』(1900)、『ベルンハルディ教授』(1912)、『令嬢エルゼ』(1924)です。

到達目標

世紀転換期ウィーン文学における女性像について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	『ウィーン青春』(1)
第3回	『ウィーン青春』(2)
第4回	『ウィーン青春』(3)
第5回	『ベルタ・ガルラン夫人』(1)
第6回	『ベルタ・ガルラン夫人』(2)
第7回	『ベルタ・ガルラン夫人』(3)
第8回	『ベルンハルディ教授』(1)
第9回	『ベルンハルディ教授』(2)
第10回	『ベルンハルディ教授』(3)
第11回	『令嬢エルゼ』(1)
第12回	『令嬢エルゼ』(2)
第13回	『令嬢エルゼ』(3)
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

テキストの読解を進めながら、ディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
科目名	ドイツ文学演習(2)(大学院)		
副題	世紀転換期ウィーン文学における女性像(2)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

世紀転換期のウィーンでは、家族のあり方や性愛のあり方が大きく変化しました。そうした中、女性はどのような存在として捉えられ、どのように描かれたのでしょうか。この授業では、世紀転換期ウィーンを生き、ナチスの台頭以降イギリス、ブラジルへと亡命を余儀なくされながらも世紀転換期ウィーンにこだわり続けた作家アシュテファン・ツヴァイクの諸作品を取り上げ、その女性像を追います。主に扱うのは、『見知らぬ女の手紙』(1922)、『女の24時間』(1927)です。

到達目標

世紀転換期ウィーン文学における女性像について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	歴史小説『マリー・アントワネット』から
第3回	歴史小説『メアリー・スチュアート』から
第4回	『昨日の世界』(1)
第5回	『昨日の世界』(2)
第6回	『見知らぬ女の手紙』(1)
第7回	『見知らぬ女の手紙』(2)
第8回	『見知らぬ女の手紙』(3)
第9回	『見知らぬ女の手紙』(4)
第10回	『女の24時間』(1)
第11回	『女の24時間』(2)
第12回	『女の24時間』(3)
第13回	『女の24時間』(4)
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

テキストの読解を進めながら、ディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
科目名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	アウシュヴィッツ後のドイツ文学		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西1-213		

授業概要

1945年以降、ナチスによるユダヤ人迫害・絶滅を描く文学が、様々な言語で、また様々な立場の人によって書かれています。この授業では、ドイツ文学においてどのような記述の試みがあるのか、いくつかテキストをピックアップして、精読していきます。

到達目標

- ・ナチスによるユダヤ人迫害・絶滅というテーマへの理解を深める。
- ・そうしたものの文学におけるテーマ化が、語る行為のテーマにもなっていることを理解する。
- ・各作家による、各作品における描き方について、自分なりの意見を持てるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期に読むテキストを決めます。
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業計画コメント

詩や戯曲、小説、エッセーの部分部分をドイツ語で読んでいきます。読むテキストとして、Max Frisch (1911-1991)、George Tabori (1914-2007)、Paul Celan (1920-1970)、Friedrich Dürrenmatt (1921-1990)、Ilse Aichinger (1921-2016)、Thomas Bernhard (1931-1989)、Ruth Krüger (1931-)、Kevin Vennemann (1977-)、Nora Gommringer (1980-)といった作家を考えていますが、具体的にどの作家のどのテキストを読んでいくかは、受講者と相談して決めます。

授業方法

ドイツ語原文を丁寧に読み、内容について議論します。

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んでください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

修士課程の学生は、文法にのっとってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。博士課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

プリントを配布します。

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
科目名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	アウシュヴィッツ後のドイツ文学		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-213		

授業概要

1945年以降、ナチスによるユダヤ人迫害・絶滅を描く文学が、様々な言語で、また様々な立場の人によって書かれています。この授業では、ドイツ文学においてどのような記述の試みがあるのか、いくつかテキストをピックアップして、精読していきます。

到達目標

- ・ナチスによるユダヤ人迫害・絶滅というテーマへの理解を深める。
- ・そうしたものの文学におけるテーマ化が、語る行為のテーマにもなっていることを理解する。
- ・各作家による、各作品における描き方について、自分なりの意見を持てるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	2学期に読むテキストを決めます。
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業計画コメント

詩や戯曲、小説、エッセーの部分部分をドイツ語で読んでいきます。読むテキストとして、Max Frisch (1911-1991)、George Tabori (1914-2007)、Paul Celan (1920-1970)、Friedrich Dürrenmatt (1921-1990)、Ilse Aichinger (1921-2016)、Thomas Bernhard (1931-1989)、Ruth Krüger (1931-)、Kevin Vennemann (1977-)、Nora Gommringer (1980-)といった作家を考えていますが、具体的にどの作家のどのテキストを読んでいくかは、受講者と相談して決めます。

授業方法

ドイツ語原文を丁寧に読み、内容について議論します。

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んでください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

修士課程の学生は、文法にのっかってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。博士課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

プリントを配布します。

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624
科目名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	記憶と文化(1)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 独文院生室		

授業概要

同じ出来事の実験であっても、それをどのような立場から経験したのかによって個人的な記憶は異なります。その意味では記憶は個人個人のレベルで異なるものですが、その記憶が世代を超えて語られる場合、個人を超えた記憶となります。さらに記憶がメディアや教育(教科書の歴史記述)、あるいは儀式や記念碑によって継承され共有される時に、集団のアイデンティティ形成に影響を与えます。記憶に関する研究は、1980年代頃から注目されるようになりますが、その背景にはドイツで第二次世界大戦の加害国としての責任問題を相対化しようとする歴史修正主義の台頭が一因となっていました。この授業では、記憶と文化的アイデンティティとの関係を、記憶研究の理論的なドイツ語基礎文献をA.アスマンの理論を中心として講読しつつ考察します。また適宜、日本との比較を行いながら進めていきます。

到達目標

記憶研究の基礎を習得し、個人的記憶が集団的記憶として形成される過程の特性と問題点を把握し、記憶と文化的アイデンティティの関係を具体的な事例に則して考察する力を養成することを目的とする。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記憶文化の3つの次元
第3回	世代と記憶(1)45年世代
第4回	世代と記憶(2)68年世代
第5回	戦争経験者の世代の記憶
第6回	20世紀における世代的記憶の概観
第7回	家族の記憶
第8回	公的領域における記憶
第9回	演出される歴史(1):博物館と展示
第10回	演出される歴史(2):物語・展示・演出
第11回	演出される歴史(3):地方史からヨーロッパ史へ
第12回	歴史教科書の変遷
第13回	記憶とナショナル・アイデンティティ(1)
第14回	記憶とナショナル・アイデンティティ(2)
第15回	到達度確認

授業方法

テキスト講読とそれに基づいたディスカッションを中心に進めていきます。なおテキスト講読は、まずは該当箇所を要約し、その後で精読を行う形で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業で扱う箇所について、要約を書いておくこと。また翻訳は予め書かずに、その場でドイツ語を見ながら訳せるように準備しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業準備の状況と授業への積極的な参加を評価のポイントとします。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業のために必要なテキストの予習(要約と精読に必要な予習)

教科書コメント

著作権を遵守した上でプリントで配布します。

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

その他

授業に出席できない場合には、事前に担当者にメールで連絡してください。

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624
科目名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	記憶と文化(2)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 独文院生室		

授業概要

第1学期で学んだ記憶の理論を基礎として、第2学期では記憶と表象可能性/不可能性について考察します。1960年代半ば頃までドイツでは、犯罪的なナチスの過去に蓋をし責任を回避する傾向が強かったのですが、その傾向に一石を投じたのが心理学者Margarete Mitscherlich/Alexander Mitscherlichの共著”Unfähigkeit zum Trauern”(1967)です。負の記憶は抑圧され封印されるというフロイトの記憶論に依拠して、ミッチャリヒ夫妻は戦後ドイツのメンタリティーを批判しました。この著書はその後ドイツにおいて加害国としての戦後責任を問い直す大きな流れに影響を与えました。一方で被害者の記憶は、それが言語化されることさえ困難であることは、フランスの映画監督クロード・ランズマンの『シオア』(1985年、日本での公開は1997年)がよく示しています。元従軍慰安婦だった韓国女性が自らの体験を語り始めたのは、ようやく1991年になってからです。この授業では、加害者と被害者双方における記憶とその言語化(表象可能性)について、記憶研究の観点から論文を講読し、また現代の問題として考察していきます。

到達目標

記憶の抑圧に関する文献として”Unfähigkeit zum Trauern”の内容とその影響を理解し、記憶と歴史認識の関連を具体的な事例に即して考察する力を養成することを目標とします。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	“Unfähigkeit zum Trauern”: “Der »Führer« war an allem Schuld“
第3回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Erfolgreiche Abwehr einer Melancholie der Massen
第4回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Die Projektion unbewußter Rachephantasie
第5回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Verliebtheit in den Führer
第6回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Noch eine Möglichkeit für Trauer?
第7回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Psychoanalytische Anmerkung über die Kultureignung des Menschen
第8回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Tabu - Ressentiment - Rückständigkeit
第9回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Identifikationsschicksale in der Pubertät
第10回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(1) 文献読解
第11回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(2) 文献読解
第12回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(3) 具体事例研究
第13回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(4) 具体事例研究
第14回	総括の討論
第15回	到達度確認

授業方法

授業前半では“Unfähigkeit zum Trauern”の文献から重要な箇所を選択して精読します。後半では経験の表象可能性・不可能性に関する文献を精読します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

扱うテキストについて指定された箇所について要約を予め書いておくこと。また精読については訳を書かずにドイツ語からその場で翻訳できるように準備しておくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

予め指定されたテキストについての要約を書いているか、またテキストをドイツ語から翻訳できるように準備をしているかを評価のポイントとします。

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、次回に扱うテキスト箇所について、要約を書いておくこと、またテキストの訳を書いておかないでその場でドイツ語から翻訳できるように準備しておくことを課題とします。

教科書コメント

著作権を遵守の上でプリントで配布します。

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業にかならず出席してください。

その他

出席できない場合には、担当者に事前にメールで連絡をしてください。